



ゼロトラスト型セキュリティを目指す

Microsoft 365を守るセキュリティツール

はじめに

近年リモートワークが普及し、同時にDX化が進んだことで社員が利用する端末が増え、会社以外の場所から社内システムにアクセスすることが当たり前になってきました。

Microsoft 365ユーザーも社外から Teams や SharePoint などにログインする機会も増えたのではないのでしょうか。

働き方が自由になる一方、セキュリティ担当は「自宅PCから会社システムにログイン」「私物スマホから会社にメール送信」などこれまでとは比べ物にならないほど監視範囲が急激に広まり、負担も増加しています。この機会にセキュリティシステムや管理体制の見直しを検討している企業も多いかと思えます。

Microsoft 365にはアクセス制限や機密情報の暗号化など、一度設定してしまえば自動で管理が行える便利なセキュリティサービスが多く存在します。

セキュリティ対策は情報資産を保護するだけでなく、自社のリスクを知り、社員が安心して働ける環境を整えることとなりますので、企業体質の強化にも繋がります。

本資料では Microsoftがお勧めする最新のセキュリティサービスをご紹介します。

CONTENS

セキュリティについて

攻撃を100%防ぐことは不可能	3
ゼロトラストを実現するには	4
テクバン連携ソリューション	5

各サービスの詳細

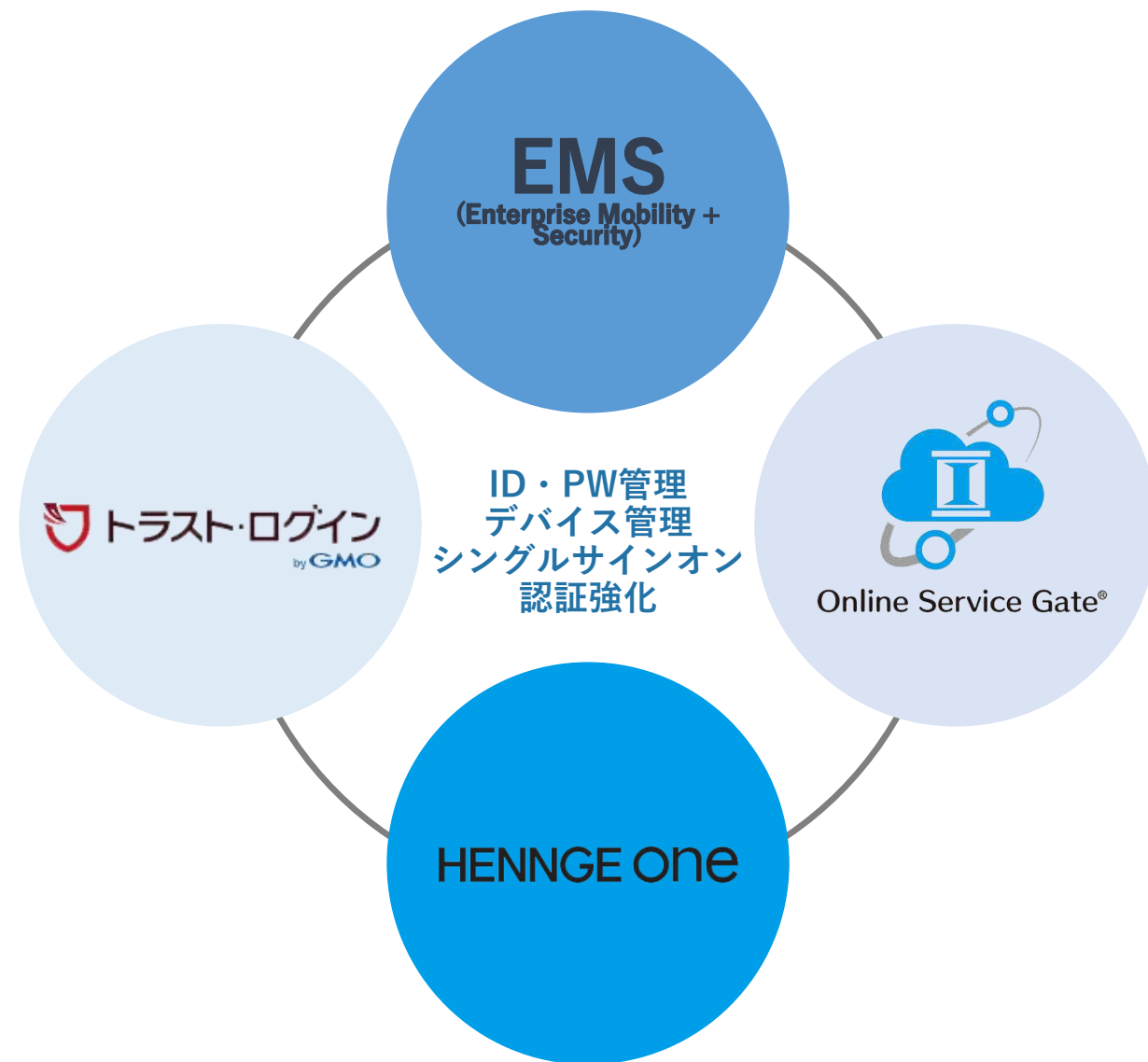
Enterprise Mobility + Securityとは	7
GMOトラスト・ログインとは	9
HENNGE Oneとは	11
Online Service Gateとは	13

導入効果	15
Microsoft 365ならテクバン	16

テクバン連携ソリューション

Microsoft 365において、ゼロトラストセキュリティのベースとなるのが、Azure AD (Azure Active Directory) を含むEMSです。

また、シングルサインオンやID/PW管理、二要素認証機能を提供するGMOトラスト・ログインやHENNGE ONE、Online Service GateがMicrosoft 365や他サービスとの連携をスムーズにし、セキュリティ強化をサポートします。



Enterprise Mobility + Security とは

Enterprise Mobility + Security (EMS) は、マイクロソフト社が提供するクラウド上でIDやアクセス管理が可能なセキュリティサービスです。

ID/アクセス管理ができる「Azure AD Premium」、デバイス管理ができる「Microsoft Intune」、データ保護ができる「Azure Information Protection」を中心に、Microsoft 365を含めたクラウドアプリケーションのセキュリティを強化できます。

